

# 緑陰通信

News from the shade of trees

## 目次

- 県立図書館トピックス …………… P1
- 秋の読書週間 …………… P2
- 県立図書館の事業を紹介します …………… P3
- 県立図書館からのお知らせ …………… P6

※緑陰通信は県立図書館のホームページ (<https://www2.tib.pref.miyazaki.lg.jp/>) からご覧いただけます。

## 県立図書館トピックス

### ■ 国文祭「光と神話の世界」



9月11日(土) 国文祭・芸文祭パートナーシッププログラム「光と神話の世界」に、本館主催の「語り部養成講座」の受講者5名が、「語り部」として出演しました。本来であれば昨年実施される予定でしたが、コロナ禍により1年延期となりました。今年も、当初は美術館前広場での屋外公演となるはずだったのですが、県独自の緊急事態宣言下と重なり、急遽メデイキット県民文化センター演劇ホールでの屋内公演となりました。公演は、日向神話を、狭野神楽、バレエ、ダンスパフォーマンス、映像、音楽等様々な形態で表現する

というものでした。「語り部」は、公演全体のストーリーテラーとして、日向神話の中から「イザナギのみそぎはらえ」「天の岩戸開き」「天孫降臨」「ニニギノミコトとコノハナサクヤヒメ」「海幸彦と山幸彦」「神武天皇の御船出」を披露しました。「語り部」が、時に繊細に、時にダイナミックに、そして味わい深く語り、それに映像と音楽が重なり、幻想的、情感的な舞台が創り上げられました。出演した「語り部」の方々が、「このような状況下で、公演ができて良かった。」と満足そうにされていたのが印象的でした。

### ■ 特別展「若山牧水～短歌(うた)への思いを<sup>たど</sup>る～」を終えて

9月18日(土)から10月17日(日)までの26日間、本館2階の特別展示室におきまして、特別展「若山牧水～短歌(うた)への思いを<sup>たど</sup>る～」を開催しました。多数のご観覧ありがとうございました。

若山牧水は、歌集だけでなく紀行文・随筆・童謡等も書き残し、作歌した短歌は約9000首とされています。晩年には生涯の夢であった文芸総合雑誌『詩歌時代』の創刊も果たしています。

今回の展示では第1歌集『海の聲』(本館蔵)を始めとする全15歌集や、牧水直筆の色紙・掛け軸等の遺墨作品(小林邦雄コレクション)とともに、死期を早めつつも自分の夢を実現したとされる同雑誌『詩歌時代』の実物(同コレクション)を展示しました。また、無二の親友・平賀春郊宛てに送られた手紙(個人蔵)を通して、同雑誌を創刊した牧水の文学・短歌への思いなどを紹介しました。県民の皆さんには改めて牧水の晩年までの生涯を再認識し、身近に感じられる機会となったのではないのでしょうか。



# 秋の読書週間

## ■秋の読書週間企画展示



「秋の読書週間」にちなみ、10月19日(火)から11月7日(日)まで『くらしの中の身近なSDGs』をテーマに、関連図書を17の目標ごとに展示しました。「持続可能な開発目標」の達成に向けて、大人も子どももみんなで取り組むための助けとなるよう、子どもにも分かりやすい絵本や児童書から読み応えのある一般書まで幅広く揃えました。

観覧された方からは、「SDGsについて自分ができることから少しずつ行っていますが、関連図書がこんなにあるとは思っていませんでした。展示することによって、一人一人の意識が少しでも変わればいいと思います。」「これを契機に『持続可能社会』へと進んで、笑える世界を作りたいです。」などの声をいただきました。

## ■秋の読書週間2021特別イベント

### 「ミシマ社三島邦弘さんにきく 本の未来 出版の未来」



10月30日(土)、県立図書館にて「ミシマ社三島邦弘さんにきく 本の未来 出版の未来」と題したイベントを行いました。

独自の経営方針で注目を集める出版社、「ミシマ社」の代表三島邦弘さんを講師にお招きし、運営には宮崎西高校の生徒にご協力いただきました。

会場には参加者の持参したおすすめの本やPOPを展示しました。宮崎西高校の生徒たちは独自にミシマ社を紹介するパ

ンフレットを作ってくるなど、初めてミシマ社を知った方にも、ミシマ社の本を愛読している方にも楽しめるような工夫を凝らしていました。

トークイベントは、講演と質問コーナーの2つに分けて行いました。講演ではミシマ社の成り立ちや、ミシマ社の宮崎での展開、出版業界についてお話いただきました。質問コーナーでは参加者や高校生の質問に答えていただきました。高校生ならではの質問もあり、三島さんはご自身の経験から、どんな質問にもユーモアを交えつつ真剣に答えていらっしゃいました。

参加者の方々からは大変ご好評いただきました。これからも、参加者の刺激になるような、本に向き合うきっかけになるようなイベントを開催していきたいと思っております。

# 県立図書館の事業を紹介します

## ■緑陰コンサート

10月17日(日)に令和3年度緑陰コンサートを開催しました。さわやかな秋空のもと、美しい音楽の響きと本の世界をお楽しみいただきました。多くの方に参加していただき、盛況のうちに終了しました。

プログラムは3部構成で、1部と3部は「みやざきほるんの会」によるホルンの演奏、2部はフリーアナウンサー 横山美和さんによる絵本の読み聞かせを行いました。

「みやざきほるんの会」の方には、ホルンの音色を生かしたクラシックや宮崎民謡メドレー、童謡やアニメ映画メドレーなど、子どもから大人まで楽しめる曲を演奏していただきました。

横山美和さんには、絵本の読み聞かせから詩の朗読まで幅広いジャンルの本を感情や雰囲気などを豊かに表現していただきました。

県立図書館として約1年ぶりの生の楽器演奏を行う緑陰コンサートでした。新型コロナウイルスの感染状況に応じた感染防止対策を徹底し、今後も県民の方々の生活を豊かにし、人生をより深く楽しめるような取組を行ってまいりたいと考えております。



## ■優良読書グループ表彰 ～高原町「フルーツバスケット」が受賞～

全国の読書グループの活動を奨励するため、公益社団法人読書推進運動協議会は、各県の推薦を受けた優良読書グループを表彰しています。令和3年度は高原町の読書グループ「フルーツバスケット」が受賞し、表彰伝達式が11月11日(木)に高原町中央公民館で行われました。

「フルーツバスケット」は18年前に設立された高原町後川内地区の読み聞かせグループです。会員数は現在7名で、地区内の保育所、小中学校において長年読み聞かせ活動を行ってこられました。月1回の定例会では、読み聞かせについての打合せや情報交換のほか、ペープサート、大型絵本、紙芝居、牛乳パックシアター等の道具づくりを行うなど、工夫しながら熱心に活動されておられます。そのほかにも、中学生が小学生に読み聞かせを行う事業では、生徒に対し選書や読み方等の指導を行ったり、就学時健康診断の際に読み聞かせを行ったりするなど、町内の様々な場面で活躍されています。



今後も高原町の読書環境の充実のために、地域に根ざした活動を行ってくださることと思います。

## ■第6回宮崎県高等学校ビブリオバトル大会開催

10月30日(土)、県高校教育課主催の第6回宮崎県高等学校ビブリオバトル大会が開催されました。

「ビブリオバトル」とは、お気に入りの本を持ち寄り、その本の魅力を紹介する知的書評合戦のことです。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりましたが、今回は参加者のみが県立図書館に集うという形式で開催され、大会の様子はオンライン配信されました。1階ロビーで視聴した来館者にも審査していただきました。

当日は、県内10校の代表が、3つの予選に分かれ、自分と本の関わりや本を通して学んだこと、本を読んで変わった自分などについて語り、自分のおすすめの本の魅力についてアピールしました。予選を勝ち抜いた3名が決勝に進み、最後にチャンプ本に輝いたのは、県立宮崎南高等学校の杉原速斗さんが紹介した住野よる／著『この気持ちもいつか忘れる』でした。優勝した杉原さんは令和4年1月に東京で開催予定の第8回全国高等学校ビブリオバトル大会に出場します。



## ■瑛九生誕110周年記念 企画展「瑛九」



特別展示室にて、10月30日(土)から12月5日(日)まで、瑛九生誕110周年記念イベントとして、企画展「瑛九～故郷みやざきと家族の絆～」を開催しました。本県出身の画家・瑛九に関して、美術評論やエスペラント語の普及活動からうかがえる瑛九の文化・芸術への姿勢・価値観や、瑛九を支え続けた家族との絆、瑛九が活躍した時代の宮崎の様相を紹介しました。

瑛九は、1911年4月28日、杉田直・雪夫婦の次男として、現在の宮崎市に生まれました。宮崎尋常高等小学校在学中に読書に夢中になり、自ら童話を執筆して雑誌に投稿しています。1925年に日本美術学校に入学し、翌年秋頃からは美術評論の執筆に熱中するよう

になり、それらを美術雑誌『アトリエ』や『みづゑ』に投稿し、掲載されています。さらに、画業のかたわら、エスペラント語の学習会や機関誌の発行を通して、エスペラント語の普及に情熱を注ぎました。瑛九にとって、エスペラント語とは、絵画に次いで生命をかけた関心事でした。1960年3月10日、48歳の若さで亡くなりました。

なお、会期中多くの方々にご観覧いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

## ■イベント「みて よんで かいて」 瑛九さんのヒミツ」



参加者の方々に県立美術館の「瑛九展 - Q E i 表現のつばさ-」及び当館の上記企画展を観覧、それぞれ美術館職員、図書館職員による解説を聞いていただいた後に、瑛九について図書館の資料を調べていただくイベントを11月から12月にかけて行いました。

観覧後は「21世紀の子どもたちに伝えるみやざきの100冊の本」の1冊でもある『瑛九 評伝と作品』(山田光春/著 青龍洞)など郷土資料や過去の瑛九関連の展示図録、貴重資料である瑛九(杉田秀夫)の父、杉田直の日記から瑛九に関してふれられた箇所をご覧いただきました。また、県内の様々な分野の方へのインタビューをまとめたDVD「宮崎この人」シリーズから、瑛九と共にデモクラート美術家協会で活動した串間市出身の画家加藤正氏や、高校時代瑛九夫婦にエスペラントを習った鈴木素直氏等瑛九に関わる動画も視聴していただきました。

参加者の方からは「美術館では一体何人の作家によるものかと思えるほど多彩な表現と素晴らしい作品の数々に圧倒された。図書館では瑛九の父杉田直が約60年続けていた日記が保存されており、瑛九の育つ様子が記されていることに感動を覚えた。」「瑛九の活動が多彩で調べるのは面白いが文で表現する難しさを感じた。」などの感想をいただきました。

参加者の皆さんで調べた内容の一部は県立図書館のホームページで公開する予定です。



## ■「かば先生文庫」誕生から10年目 ～故佐藤先生の思いを繋ぐ～

平成24年に小児科医の故佐藤雄一先生（享年64歳）のご遺族から、絵本や児童図書の寄贈をいただいて誕生した「かば先生文庫」は、今年10年目を迎えました。

佐藤先生は、親子の交流を深めるために読み聞かせの大切さを伝えたいと、自身の小児科医院で絵本等の貸出やホームページでおすすめの絵本の紹介を行うなど、親子が本に親しめる環境づくりにもご尽力されていました。ご遺族からその思いを受け継ぎたいと、県内の子どもたちのために絵本等の寄贈の相談を受け「かば先生文庫」は誕生しました。

これまで寄贈いただいた本は累計で1,901冊となりました。これらの本は当館の児童図書室や県内の市町村図書館・図書室を通じて多くの子どもたちの手元に届けられています。

「かば先生文庫」は、佐藤先生がかばのグッズを集めるのが好きで、先生の愛称として親しまれていたことから、文庫名にさせていただきました。

佐藤先生とご遺族の思いをしっかりと受け継ぎながら、図書館が子どもたちにとって素晴らしい本との出会いの場となるように活用させていただきます。



## ■名誉館長おすすめの本

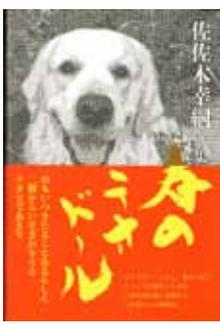
当館の名誉館長より、おすすめの本を御紹介いたします。

閲覧室内に「名誉館長おすすめ本」のコーナーも設けています。ぜひご覧下さい。



『死はこわくない』  
立花隆／著  
文庫文庫 2018年

惜しまれて亡くなった立花隆氏のエッセイ集。多ジャンルの仕事に大きな成果をあげたジャーナリストの立花氏はとくに「死」の問題に取り組んだ。この一冊はがん、心臓手術を乗り越え、みずからの考えを率直に述べ、生と死について深く考えさせてくれる。



『歌集春のテオドール』  
佐佐木幸綱／著  
ながらみ書房 2021年

若山牧水賞受賞者で、現在は選考委員の佐佐木氏の最新歌集。テオドールとは、佐佐木氏が家で飼っている白いゴールデン・リトリバーである。<おもいつきたることあるらしく 二階からいそぎおろくるテオとであえり>。犬と暮らし、自然と人間を温かく見つめる。思いきって平仮名書きを多くして新境地の歌集でもある。



『小説 秋月鶴山』  
童門冬二／著  
PHP研究所 2021年

すでに『小説 上杉鷹山』を出版している童門氏が、鷹山の兄である高鍋藩第七代藩主秋月種茂（鶴山）の進取の治世とその生涯を描いている。このような名君が宮崎県にいたことを誇りにしたい気持ちになる一冊である。

# 県立図書館からのお知らせ

## ■障がい者サービスのご案内

障がい者サービスについて紹介をします。県立図書館では、平成27年度から2種類の障がい者サービスを開始しています。

1つは「障がい者郵送貸出サービス」です。身体や知的に障がいがあることによって来館することが困難な方にご自宅まで無料で本を郵送するサービスです。本年度10月末時点での貸出冊数は206冊です。

もう1つは「視覚障がい者等サービス」です。視覚障がいがある方だけでなく、高齢や病気その他の障がいにより読書にお困りの方に対してデージー録音図書や再生機器の貸出を行うサービスです。同じく10月末時点での貸出冊数は335冊です。

また、4番カウンター付近に『読む』サポートコーナーを設置しました。どなたでも読書を楽しむことができる様々な資料があります。例えば、写真、絵記号（ピクトグラム）、分かち書きなどを用いた『LLブック』や、文章を音声で聞きながらパソコンの画面上で絵や写真を見ることができる『マルチメディアデージー』があります。

障がい者サービスについてご質問などございましたら、4番カウンター（TEL：0985-29-2972）までお問い合わせください。



## ●特別整理期間のお知らせ●

県立図書館では、蔵書点検等行うため2月に特別整理期間を定め、連続した休館日を設けています。今年度は以下の日程で行います。皆様にはご不便おかけいたしますが、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

### 特別整理期間

令和4年1月31日(月) ~ 2月10日(木) 11日間



県立図書館の資料の購入には、宝くじの収益金の一部が使われています。  
宮崎県

### ご利用案内

開館時間 ■一般閲覧室：9:00～19:00  
■児童図書室：9:00～17:00  
休館日 ■毎週月曜日（祝日の場合翌日）  
年末年始：12/29～1/4  
特別整理期間：1/31～2/10

### 編集・発行

#### ●宮崎県立図書館

所在地 ■〒880-0031 宮崎市船塚3丁目210番地1  
TEL ■0985-29-2911（総務・企画課）  
FAX ■0985-29-2491（総務・企画課）  
HPアドレス ■<https://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>

